ティチャーズカフェ　オピニオン

# チーム「意外性」

鈴木達哉（三重県・高校）

**（1）提案のまとめ**

我々のチームは佐藤が“コミュニケーション力”、大村が“課題解決力”、鈴木が“主体性、共生力”と、3 人のキーワードがすべて違う状況であった。そのため、その共通性や普遍性を探る中で「意外性」が生まれるのではないかと考えた。しかし、話し合いの結果出てきたのは、キーワードは違っていても向いているのはみんな同じ方向であり、アプローチの違いがあるだけだという結論である。結局、我々が求めているのは「生きる力」、それは 12 年間の学びだけでなく、さらに先の社会を見据えた「市民性」ともいえる力である。そのために必要なのは小中高大を超えた社会、地域をも含む人たちの「つながり」であり、もし行政や学校教育の「縦割り意識」がそれを阻害する要因であるとすれば、このような会が幼稚園教諭、大学教員、企業人も含めてもっと大きな輪を築く「場」になってほしい。

**（2）質問や意見を受けての気づき**

各グループの発表を聞いていても、我々のグループだけでなく、この場に来ている先生方（ベネッセ社員も含めて）は、表現の仕方は違っていても本質的には同じものを見ているのだということが確認できた。それは抽象的かもしれないが、学校という枠を超えて「社会で生きる力」であり、それをどのような角度から見るか、どのようなアプローチで達成を目指すかという違いがあるだけである。社会はどんどん動いている。その流れはますます急になっていく。ベネッセの渡邊氏が発表したように「現在の小学生は 22 世紀を生きる」「今の小学生の 65％は現在ない職業に就かなければならない」のである。我々はそのような前提としての意識を持った上で子どもたちの教育に当たっていかなければならない。そのような想いを確認できた。

**（3）感想と提案**

たまたま今回のチームは前回も参加して共通理解をはかれている者ばかりであったため、当初考えたようにキーワードの違いから来る化学反応より、多くの共通性を確認するような話し合いになってしまった。私はこの会は是非第 3 回、第 4 回と続けていってほしいと考えているので、過去に参加した先生方の活用の仕方を考えてほしい。たとえば、それぞれの地方で開催し、彼らをリーダーとして広げていく方法。参加範囲を幼稚園や大学、企業などに広げて開催する方法。せっかくのベネッセの作ってくれた「きっかけ」（私はきっかけだと思っている）を全国に広げて、この「つながり」を教育現場に落とし込んでいけるような「仕掛け」を期待する。もちろん、今回参加した先生方の多くも、賛同し参加してくれるのではないかと思う